

## 50haの水田地帯に ライフ・スケープ をデザインする

Lifestyle × Landscape

Prof. Aya KUBOTA  
M1 Yuko INA  
M1 Yoshino OTA  
M1 Takashi SHIBUYA  
M1 Akihito NISHIMUTA

### プロジェクト概要

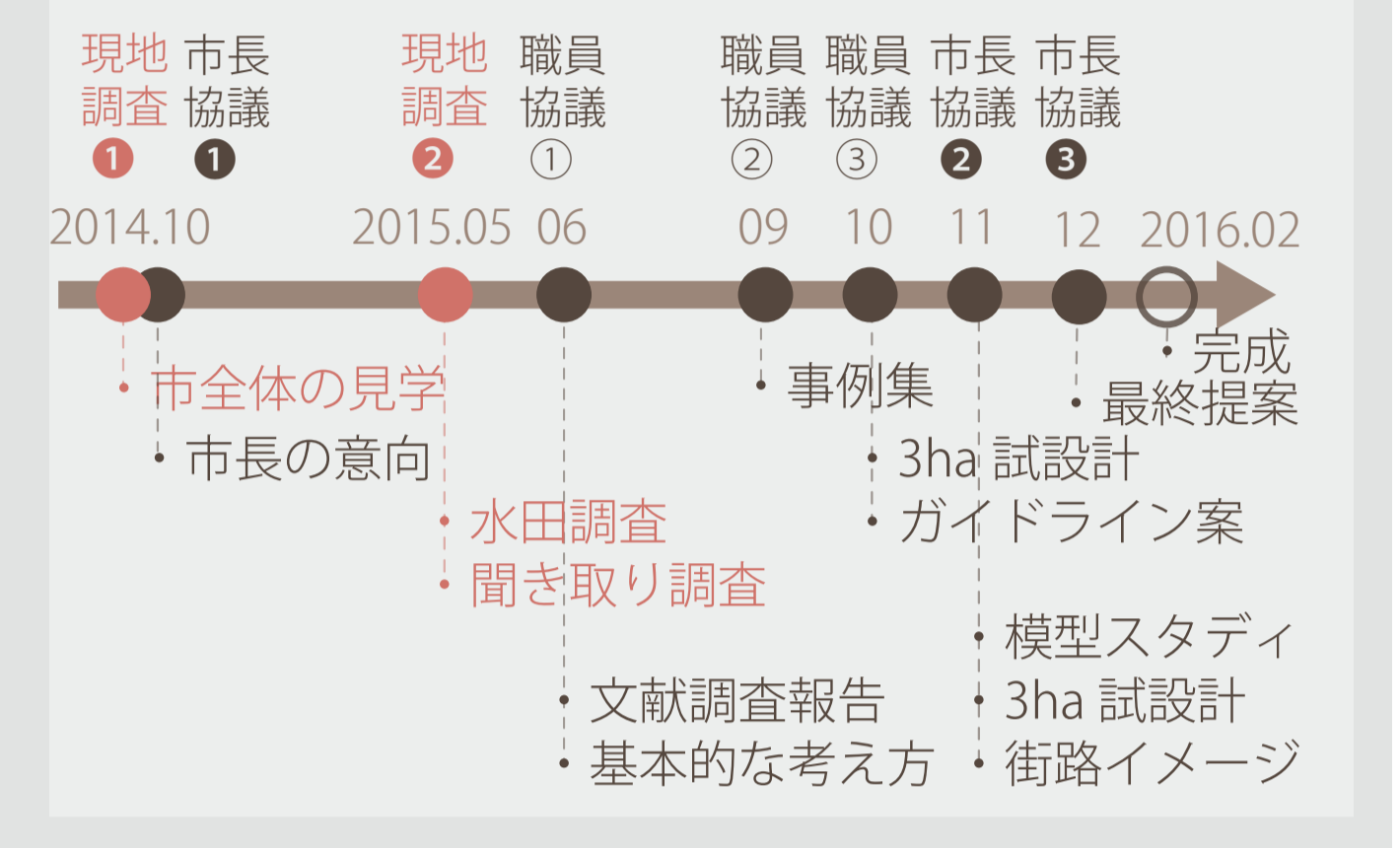
本プロジェクトの特色は、大きく2点ある。1つは行政の都市計画の立場からアーバンデザインを検討している点、そしてもう1つは、担当だけでなく市長とも協働している点である。そのため、実現に向けた推進力はとても強いと言える。市長室で模型を囲み、コンセプトから街路樹の樹種まで議論してプランを練り上げていく。

対象地は滋賀県守山市の都市計画マスタープランにおいて「市民交流ゾーン」と位置づけられている、50haの市街化調整区域。現在は大半が田んぼである。今後なされる開発に向け、基本的な考え方やルールをガイドラインにまとめている。

### ■対象地



### ■2015年度の活動

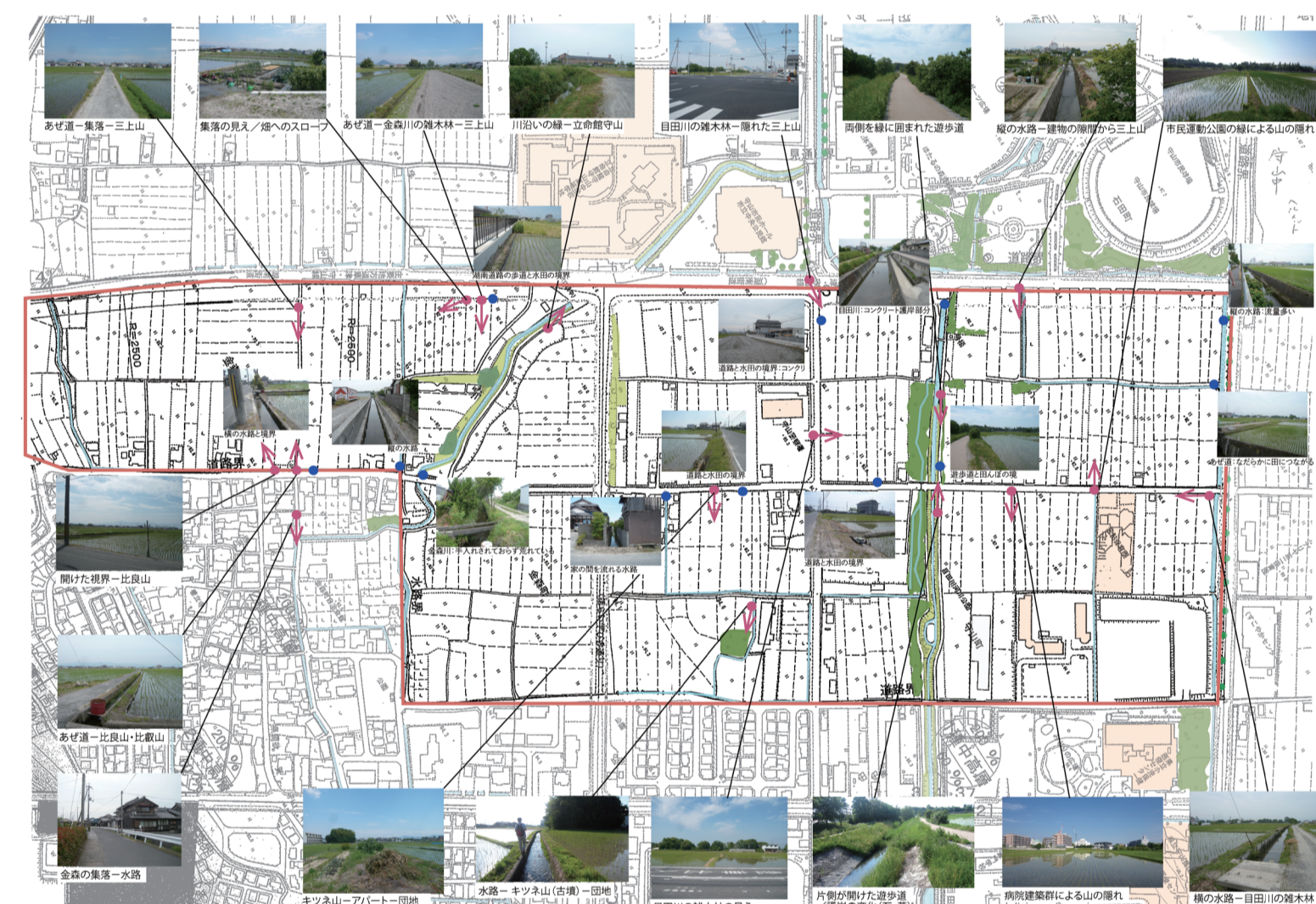


### 初年度の成果

まず基礎調査からはじめ、地域の骨格から詳細までスケールを往復しながら空間・制度のデザインを詰めていった。市と何度も協議を重ねる中でこだわりたい部分が見えてきてからは、試設計や詳細な制度設計をもとに粘り強く説得する場面もあった。

### ■基礎調査 — 守るべき価値の抽出

風景調査では、田んぼ・水路の分布および複数地点からの眺望を分析し、今ある風景の構成要素を理解した。



### ■コンセプト — 守山にしかない“ライフ・スケープ”を醸成する

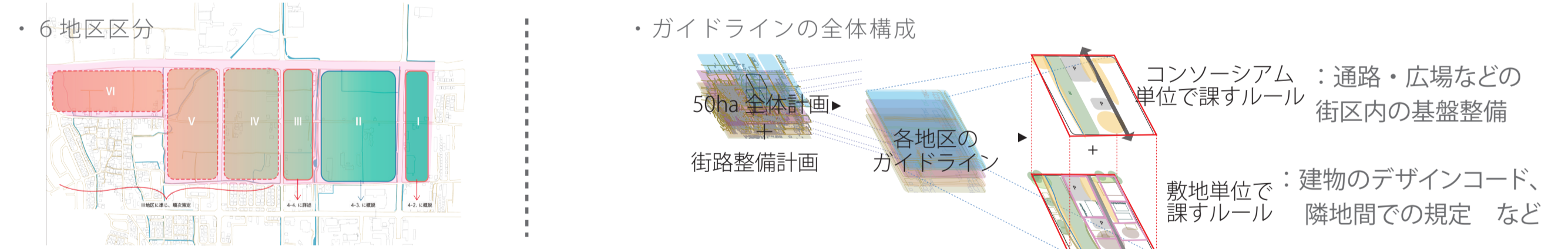
守山に息づく4つの価値を柱として、それらが融合するライフスタイルや風景をつくる。それを楽しむ人々がここで思い思いに活動する様子が、長い時間をかけて地域の生活景となっていく。

■ 調査から抽出した、これからも守るべき守山の4つの柱

- 水と緑 — 今ある水田風景と人々の生活の、接点を増やす：地域風土（風景）を醸成
  - ▶ とくに、以下の4つの風景要素を活かしていく方針：
    - 3方向の山の見え（遠景）・旧河川敷～湖岸の緑・鎮守の森（中景）・田んぼと水路（近景）
- 文化 — 郊外ならではの多様な住民が交流を機に、ライフスタイル向上に関心を持つ
- 生業 — 人々の生活の履歴が表出し、新たな営みの創出をサポート
- 健康 — 集積する医療施設と住民がかかわりを持っていける持続的な場を構築

### ■制度設計 — ガイドラインの全体構成、ルール対象の階層化

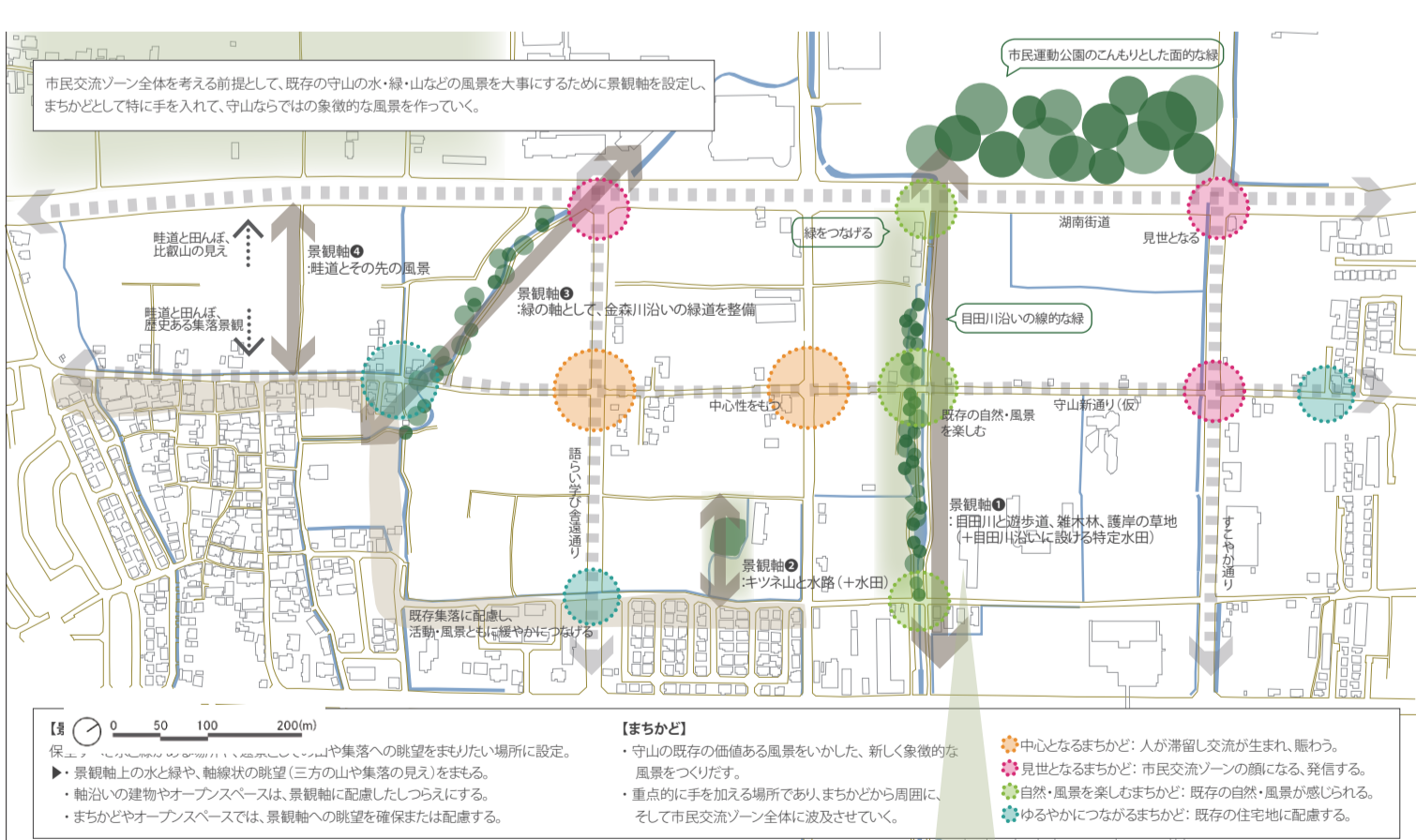
全体を6地区に分割して段階的に整備する。全体計画にもとづき詳細に定めた地区のガイドラインをもとに、民間事業者のコンソーシアムが地区計画を提案する。



### ■空間設計 — 骨格となる全体計画から、地区・街路ごとのイメージ・デザインコードまで

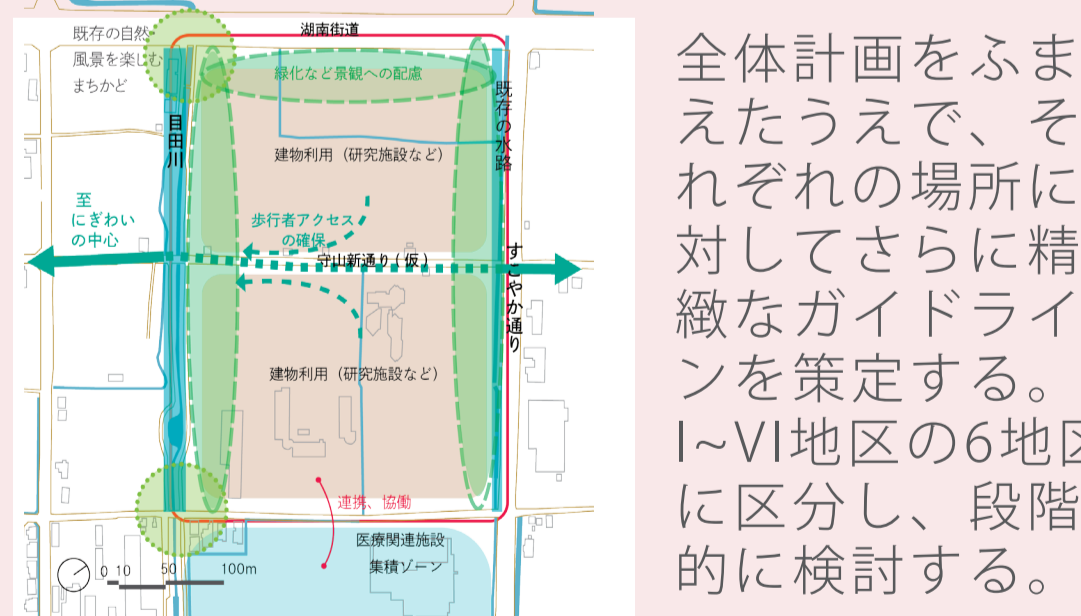
#### 全体計画

街路沿い・まちかどへ開発を集約、田んぼと雑木林の景観を保全



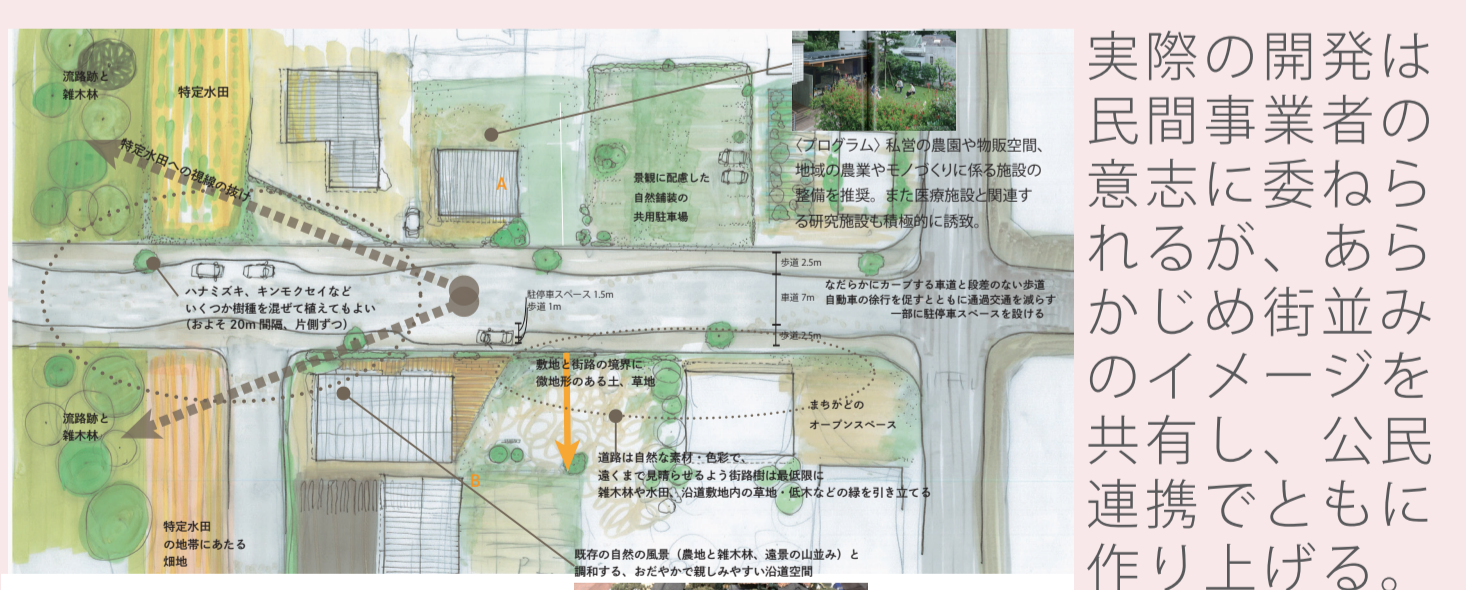
#### 各地区のガイドライン

地区＝大区ごとにゾーニングや密度を規定



#### 街路整備計画

風景とにぎわいをもたらす街路空間を詳細に描写



#### 試設計

既存の風景と調和する建築・オープンスペース



#### デザインコード

街並みとアクティビティを誘導するためのルール化



### ■守山PJでお世話になっている方々

- 守山市市長 宮本和宏さま
- 滋賀県守山市役所 都市経済部 都市活性化局 都市計画・地域交通課の皆さま

- インタビュー調査でお世話になった皆さま：自治会の皆さま・Sさま（主婦）・Mさま、Dさま（市職員）・Kさま（学校教諭）・Nさま（市民病院）

◆ プロジェクトに関心のある方へ  
現時点では新メンバーを募集していませんが、今後の活動の展開によっては新たに募集する予定です。関心をお持ちの方は、地域デザイン研の伊奈（新M2）までご連絡ください。後日ご案内させていただきます。  
mail : ina.yuko@td.t.u-tokyo.ac.jp